

台風16号（第3宮古島台風）による潮風害について

第2報 甘しょの潮風害について

窪田 忍・上妻道紀・江畑正之

(鹿児島県農業試験場)

KUBOTA, S., KOUZUMA, M., EBATA, M.

On the Injury suffering from Saliferous Storm (Typhoon No.16) in Paddy Rice and Sweet Potato

2. On the injury by saliferous storm of Sweet Potato

台風16号は甘しょに対してもまれにみる被害を見せたのでその概要を報告する。

1. 甘しょの被害様相

台風の規模としては大きくなかったが、台風時に降雨がほとんどなく、潮風に含まれた塩分が茎葉に附着したため、塩分の直接的な被害とこれに伴う脱水作用によって生じた生理的障害であった。そのため日時の経過とともに茎葉は降霜による枯死に似て黒変し被害の大きいものは完全に枯死した。その後茎の残ったものは茎から茎葉の再生が、茎葉の完全に枯死したものはいもからのほう芽が認められ、2週間程度でいもから、ほう芽長が20cm程度に達したのも見られた。

2. 県下の被害状況

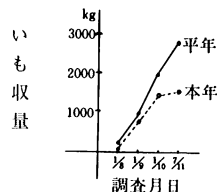
県下の被害状況は薩摩半島南部に集中し、枕崎から宿指にかけての被害率が20~39%と最もひどく、ついで吹上、鹿児島地区の10~19%で、大口、加治木、から大隈半島は5%以下の被害率であった。

3. 鹿児島農試内の被害状況

農試内の被害率は農林省鹿児島統計調査事務所鹿児島農試の調査によれば、6月5日植農林2号（東西うね）で枯死茎歩合58%、枯死葉数歩合60%であった。観察による品種間差では農林2号の被害が最も大きく、うね上の茎葉はほとんど枯死した状態であった。それに比較してアリアケイモ、農林3号はうね上の茎葉もわずかながら生存葉もみられる程度で被害は少なく、コガネセンガン、サツマアカ、高系14号は農林2号と農林3号の中間の被害であった。植付時期では6月5日植より7月5日植の晩植の被害が軽く、施肥条件では多肥区の被害が軽い傾向がみられた。うねの方向では東西うねより南北う

ねの被害が大であった。

4. 台風通過後の上いも重とでんぶん歩留り



第1図 上いも重の経過

台風通過後のいも重の経過は第1図のとおりで、わずかに増加しているがほとんど横ばいの傾向であった。でんぶん歩留りは茎葉の再生のため一時的に減少したがその後再蓄積によって若干の増加が認められた。

5. 潮風害のひどかった南薩地帯の工場え入荷した

いものでんぶん歩留り

第1表 潮風害を受けたいものでんぶん歩留り

場所名	調査日 調査数	調査月日				
		10.29	11.5	11.12	11.19	11.26
山川町	2	21.7 %	20.1 %	22.2 %	22.0 %	— %
穎娃町	8	22.4 %	22.2 %	22.9 %	22.5 %	21.9 %
開聞町	4	21.9 %	22.9 %	22.5 %	23.2 %	23.4 %
枕崎市	3	20.8 %	21.3 %	21.7 %	21.7 %	21.7 %
知覧町	5	23.0 %	22.5 %	23.0 %	21.7 %	21.5 %
川辺町	5	22.8 %	22.1 %	21.9 %	21.9 %	22.1 %
指宿市	4	— %	21.9 %	23.8 %	23.6 %	23.0 %

被害地の工場へ入荷した原料を任意に3~4kg農試に運び調査した結果で、全体的にみると一定の傾向はつかみにくいが、場所では枕崎市が全般を通じて最も低い値であり、10月29日の調査では枕崎のほか山川、開聞が川辺、穎娃、知覧より低かったがこれは潮風害を受けた結果と推察された。

参考文献

1), 中馬克己, 農業気象7巻1号